

清流

題字：芳野 充

平成29年11月30日

第11号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

身の周りをととのえ、心をととのえる

思いやりを具体的にあらわした「日常の心がけ」の八番目には、「身のまわりの整理整頓」とあります。

二十代のころのわたしの部屋は雑然としており、いつも探しモノをしていました。あれがない、これがない、と右往左往し、自分でどこかにやってしまったているにも関わらず、イライラとした雰囲気を感じ、周りに不快さをあたえていました。

それがあるときを境に、整理整頓美化を意識するようになりました。それは素心学塾塾長である、池田繁美先生との会話のやり取りのなかで「いつも探しモノをしている人は、仕事ができない人がおおいですよ」と聞き、そのときのわたしが正にそうでしたので、見透かされたようで、とても恥ずかしい思いをしたのをきっかけに、身のまわりを意識するようになりました。

まず「整理」とは、必要なものとそうでないものに区別すること。「整頓」とは、必要なものを分類して、取り出しやすく、使いやすいうにしておくこと。「美化」とは、見た目を美しく保つこと。また仏教では「唯心所現（ゆいしんしょげん）」という言葉がありますが、心の状態が、そのまま身のまわりにあらわれる、ということも知りました。当時のわたしはこの言葉に自分をあてはめ、改めて身の周りをみてみると、不要なものであふれかえっていることに気づかされました。雑然とした空間は不快さでしかなく、またそのなかで探しモノをしているわたしの心は、平常心や平静さとはほど遠いものでした。

一念発起し、まずは不要なものを片っぱしから処分しました。つぎに必要なものは分かるようにまとめ、見た目もなるべく美しくたもつよう心がけました。おかげさまでいまは以前のように探しモノをすることが少なくなりました。また、身のまわりがととのってくると、自然と心もととのってくることも実感しはじめました。

現在、家族で取りくんでいることは、月曜日から金曜日まで小学校五年生の息子にはトイレ掃除を、小学校三年生の娘には玄関掃きをしてもらっています。わたしは土日にトイレ掃除をおこない、毎日布団をキレイにたたむようにし、妻は室内の美化につとめてくれています。

もうすぐ年末です。えらそうなことを書き連ねましたが、気づけば不要なものがチラホラみられるわが家をいま一度見渡し、身の周りをととのえ、心おだやかに年末年始を過ごせるようにしたいと思います。

加来 寛

